

第37回静岡県地方港湾審議会

補足資料

清水港港湾計画(輕易な変更)



平成27年3月16日(月)
静岡県交通基盤部湾局港湾企画課

目次

I 清水港の概要

II 計画変更の内容（塚間地区）

III 計画変更の内容（新興津・興津地区）

I 清水港の概要 ～ 清水港の位置（静岡県内の交通ネットワーク）～



いっしょに、未来の地域づくり。New Public Engineering for SHIZUOKA

I 清水港の概要 ～清水港の全景～

H24取扱貨物量	1,556万t(全国41位)
H25取扱貨物量	1,477万t
H25貿易額	2兆5,665億円(全国14位)
H25外資コンテナ取扱個数	407,603TEU(全国8位)



JR清水駅

新興津・興津地区

袖師地区

三保地区

三保松原

江尻地区

貝島地区

塚間地区

日の出地区

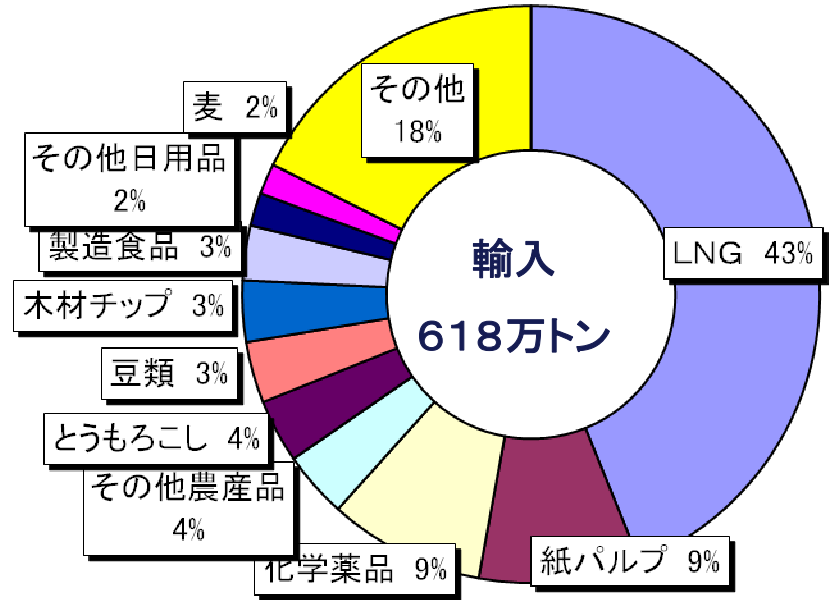
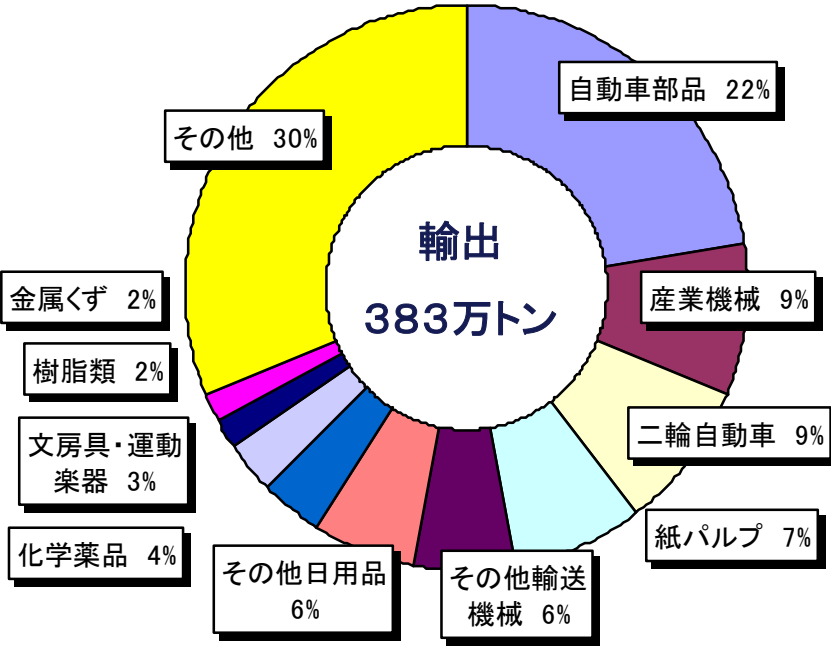
富士見地区

折戸地区



I 清水港の概要 ～平成26年輸出入取扱貨物～

H26取扱貨物量	1,482万t
H26輸出入取扱量	1,001万t



● 日本一の輸出入品

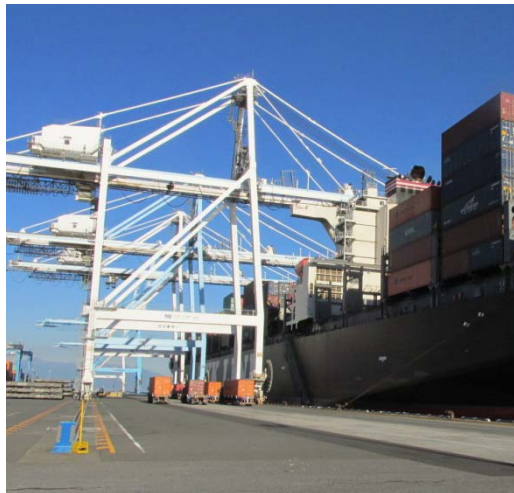
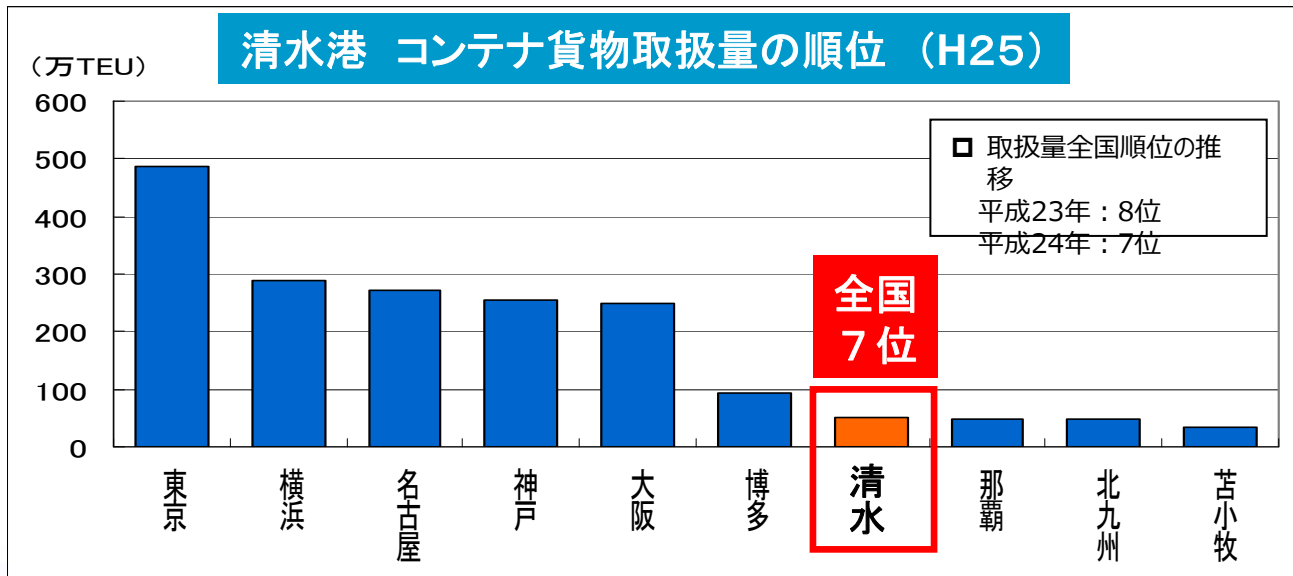
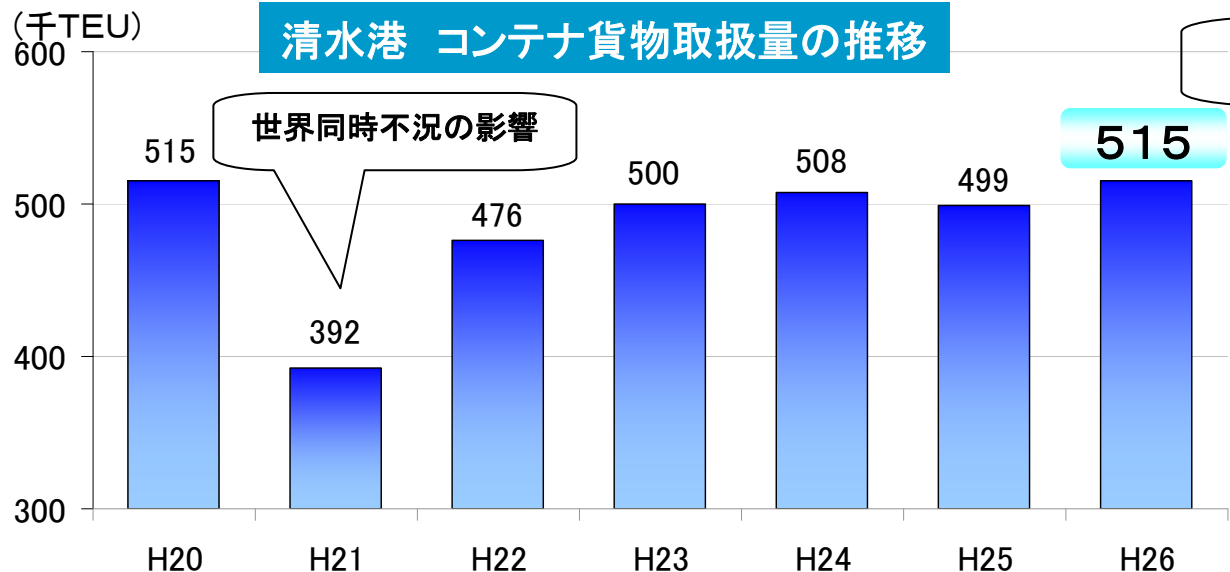
輸出品

オートバイ・まぐろ缶詰・プラモデル

輸入品

冷凍マグロ・紅茶・各種ボール

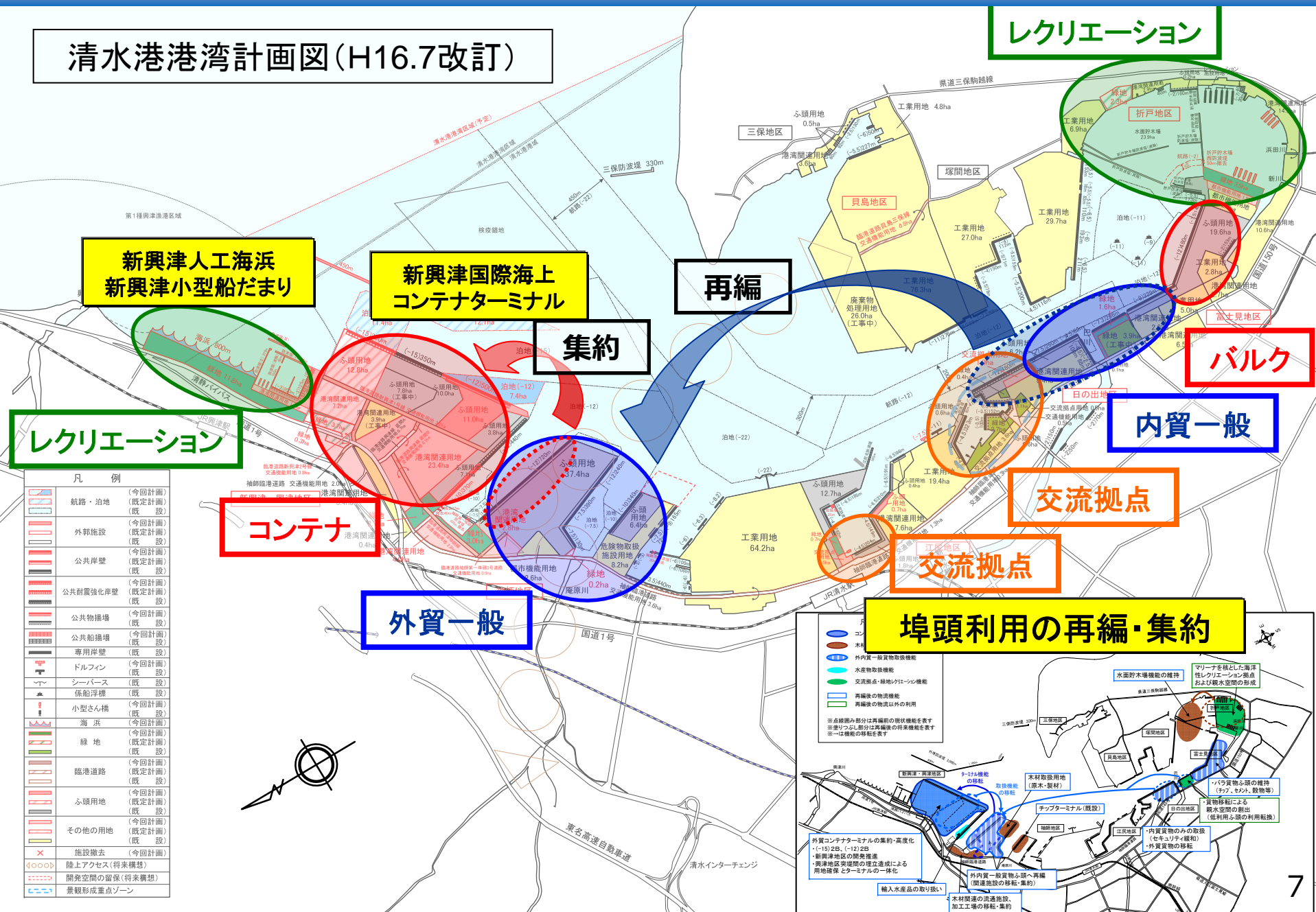
I 清水港の概要 ～コンテナ取扱量の推移～



いっしょに、未来の地域づくり。New Public Engineering for SHIZUOKA

I 清水港の概要 ~清水港港湾計画の概要~

清水港港湾計画図(H16.7改訂)



レクリエーション

**新興津人工海浜
新興津小型船だまり**

**新興津国際海上
コンテナターミナル**

再編

集約

バルク

内貿一般

レクリエーション

コンテナ

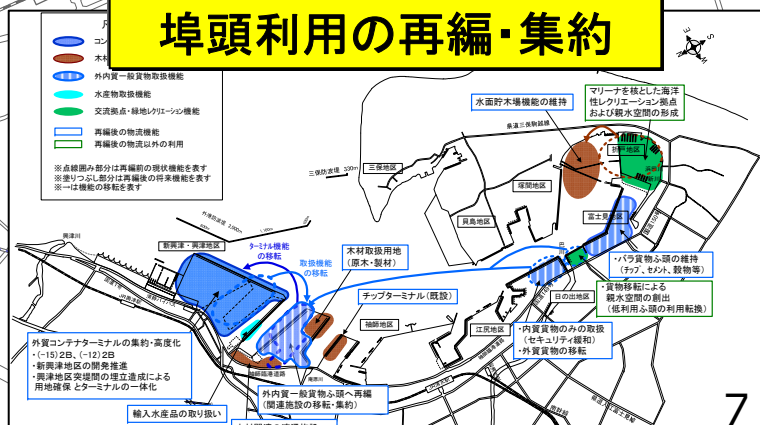
外貨一般

交流拠点

交流拠点

埠頭利用の再編・集約

凡 例	
	航路・泊地 (今回計画)
	航路・泊地 (既定計画)
	外郭施設 (今回計画)
	外郭施設 (既定計画)
	公共岸壁 (今回計画)
	公共岸壁 (既定計画)
	公共耐震強化岸壁 (今回計画)
	公共耐震強化岸壁 (既定計画)
	公共物揚場 (今回計画)
	公共物揚場 (既定計画)
	公共船揚場 (今回計画)
	公共船揚場 (既定計画)
	専用岸壁 (既定計画)
	ドルフィン (今回計画)
	ドルフィン (既定計画)
	シーバース (既定計画)
	係船浮標 (既定計画)
	小型さん橋 (今回計画)
	小型さん橋 (既定計画)
	海浜 (今回計画)
	海浜 (既定計画)
	緑地 (今回計画)
	緑地 (既定計画)
	臨港道路 (今回計画)
	臨港道路 (既定計画)
	ふ頭用地 (今回計画)
	ふ頭用地 (既定計画)
	その他の用地 (今回計画)
	その他の用地 (既定計画)
	施設撤去 (今回計画)
	陸上アクセス(将来構想)
	開発空間の留保(将来構想)
	景観形成重点ゾーン



I 清水港の概要 ～新興津コンテナターミナルの整備状況～

整備状況

- ・水深－15m 連続2バース700mの耐震強化岸壁
- ・18列型スーパーガントリークレーン5基

第1バース

第2バース

整備中

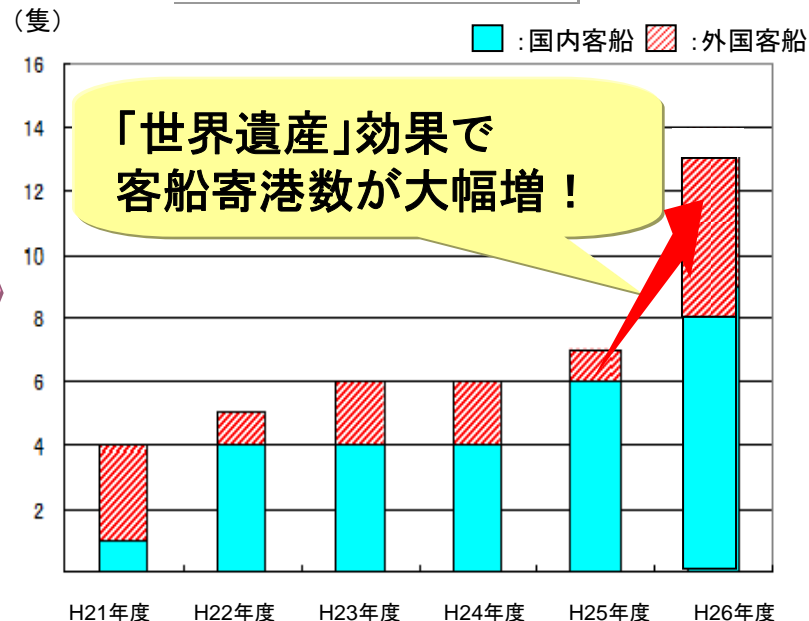
平成29年度の中部横断自動車道の開通に合わせ、
コンテナヤードを整備中

I 清水港の概要 ～富士山世界遺産登録の効果～



**H25.6.26 世界遺産登録！
富士山と三保松原**

年度別客船入港状況



アムステルダム (60,874トン、238m)



入港する外国客船アムステルダム



歓迎行事の様子



日本酒を試飲する乗客

いっしょに、未来の地域づくり。New Public Engineering for SHIZUOKA

目次

I 清水港の概要

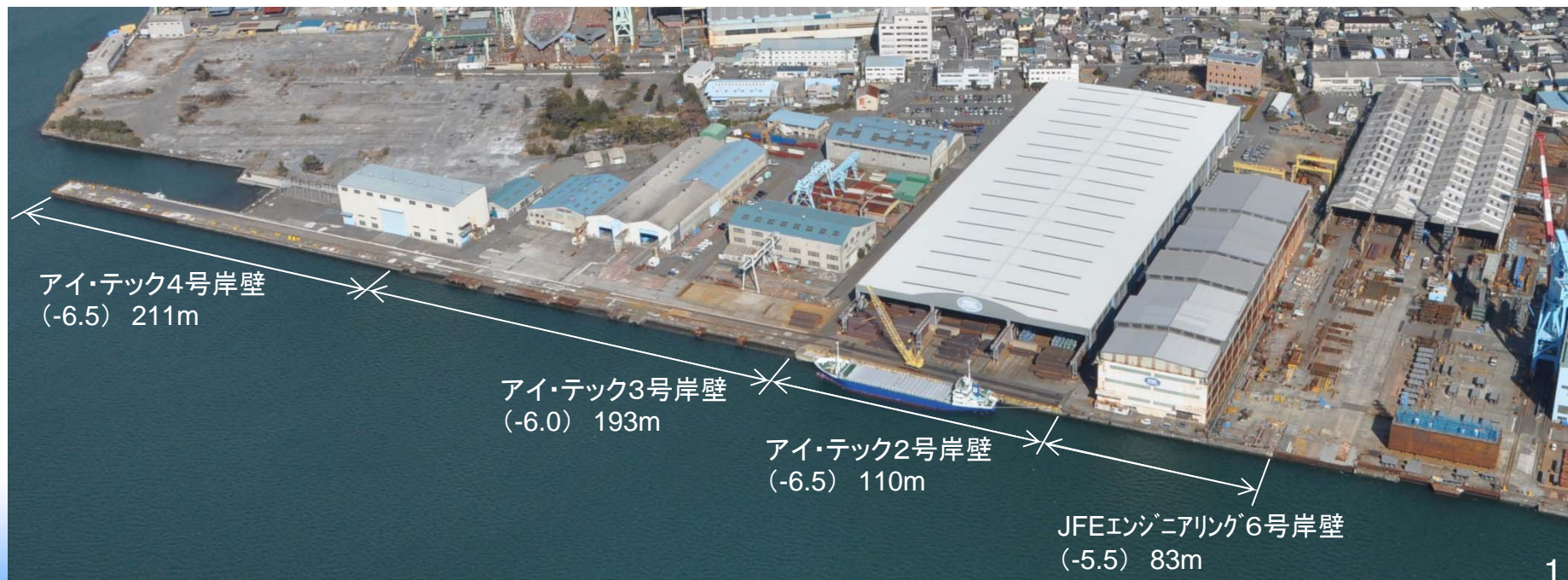
II 計画変更の内容（塚間地区）

III 計画変更の内容（新興津・興津地区）

今回変更する既存施設の現況

表2-1-1 今回変更する既存施設の現況

地区名	施設名	水深	延長	区分	取扱品目	管理者
塚間	アイ・テック2号岸壁 対象船舶: 3,000DWT	-6.5m	110m	既設	鋼材等	(株)アイ・テック
	アイ・テック4号岸壁 対象船舶: 3,000DWT	-6.5m	211m	既設		
	アイ・テック3号岸壁 対象船舶: 2,000DWT	-6.0m	193m	既設		
	JFEエンジニアリング 6号岸壁 対象船舶: 1,000DWT	-5.5m	83m	既設	鋼材等	58m: (株)アイ・テック 25m: JFEエンジニアリング(株)



対象船型の設定

今回変更するアイ・テック2号岸壁への入港船舶は、鋼材運搬船(5,000DWT)を計画していることから、対象船型を以下のとおり変更する。

表2-1-2 対象船舶の変更

	船種	船舶諸元				岸壁規模	
		船型	船長	船幅	満載喫水	水深	延長
現 況	鋼材運搬船	3,000DWT	92.0m	14.7m	5.5m	-6.5m	110m
今回計画	鋼材運搬船	5,000DWT	107.9m	17.0m	6.4m	-7.5m	200m



変更する専用埠頭の規模及び配置



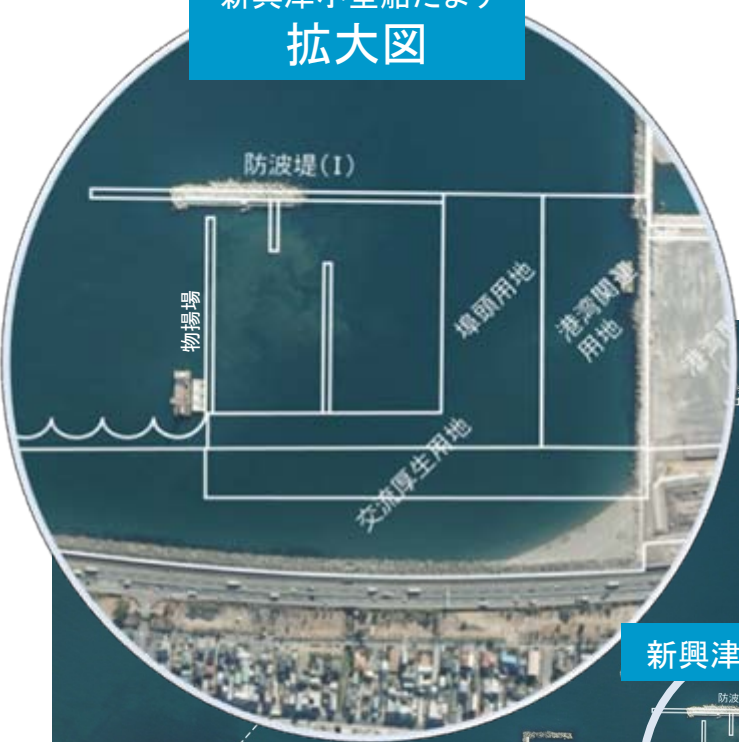
目次

I 清水港の概要

II 計画変更の内容（塚間地区）

III 計画変更の内容（新興津・興津地区）

新興津小型船だまり
拡大図



新興津小型船だまり事業

清水港内に分散している漁業利用施設を集約するため、平成16年7月港湾計画に位置づけ、平成21年度から事業開始
 現在、防波堤及び物揚場に着手



新興津小型船だまり

新興津国際海上
コンテナターミナル

新興津人工海浜

JR興津駅

[既設]興津・袖師船だまり

プレジャーボート収容計画

現状のプレジャーボート保有隻数や港内のプレジャーボート収容計画（折戸地区への集約）を踏まえ、新興津小型船だまりのプレジャーボート収容隻数を見直す

プレジャーボート収容隻数

全体計画隻数 : 1, 265隻

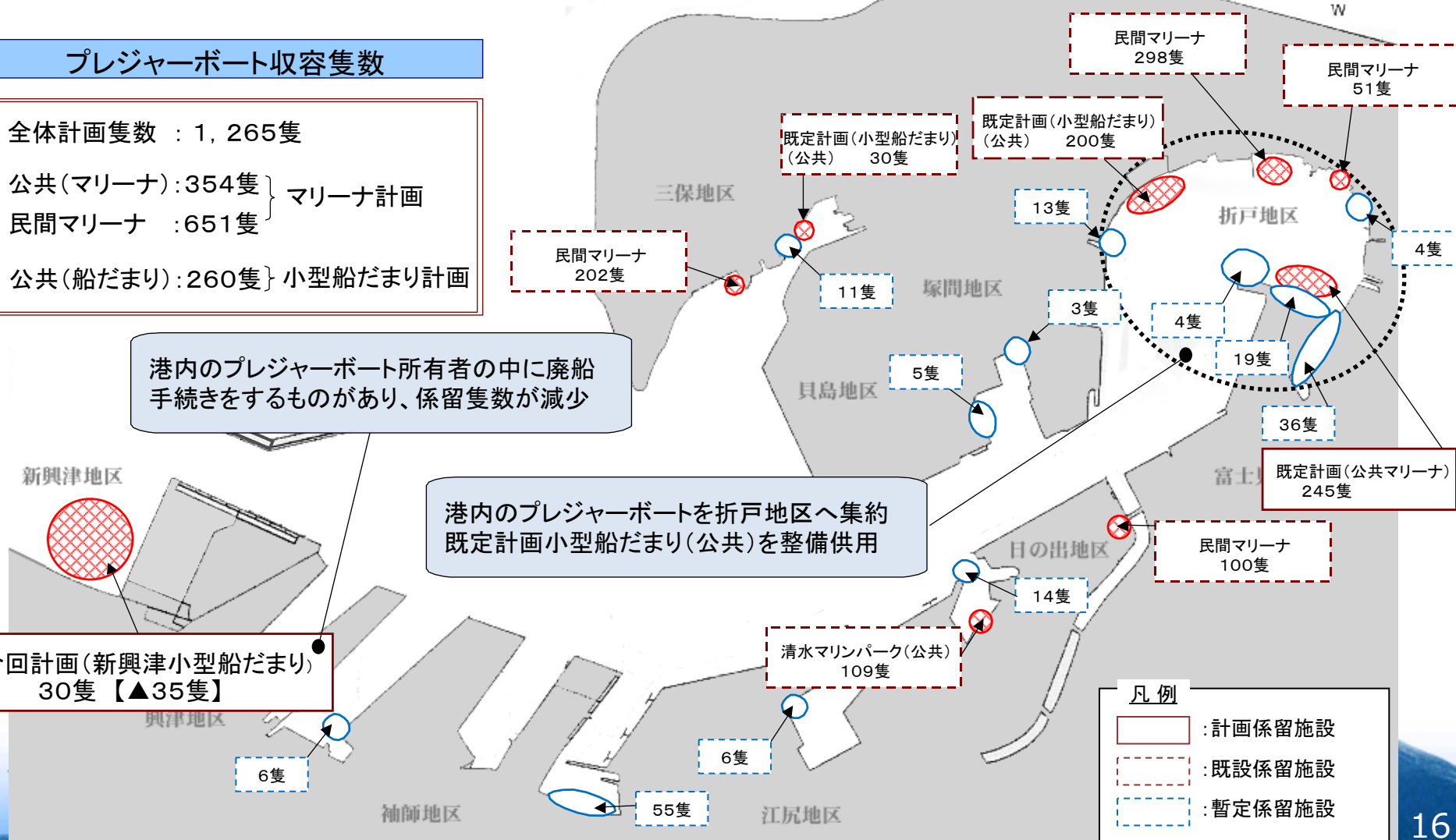
公共(マリーナ): 354隻 } マリーナ計画
民間マリーナ : 651隻

公共(船だまり): 260隻 } 小型船だまり計画

港内のプレジャーボート所有者の中に廃船手続きをするものがあり、係留隻数が減少

港内のプレジャーボートを折戸地区へ集約
既定計画小型船だまり(公共)を整備供用

今回計画(新興津小型船だまり)
30隻【▲35隻】

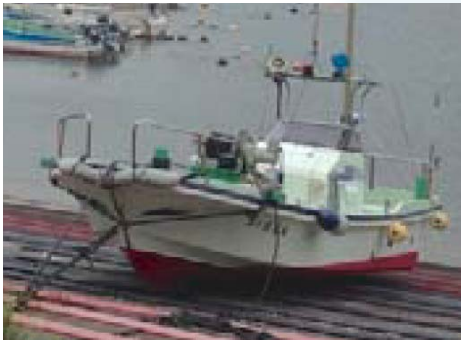


必要係留施設延長及び配置計画

- ・安全に配慮し、漁業機能は港奥部に配置
- ・プレジャーボートは漁船との輻輳を避け、人工海浜側に配置
- ・海上バス発着場は船だまりの利用形態やJR興津駅からのアクセス等を踏まえ、人工海浜側に配置
- ・帰港集中による混雑時や荒天時等の不測の事態への対応及び製氷を積み込むために、一時的に待機する補助的な施設を新たに確保し、港口に近い中央先端部に配置

船揚場の規模

○斜路式
 最大漁船(L=20m B=4~5m)
 2隻同時係留
 又は主力クラス(L=9.5m B=3m)
 3隻同時係留
 余裕幅を含め15mを確保



○クレーン式
 小型漁船やプレジャーボートを上下架するため、幅7m、奥行き20mの掘割水域を確保し掘割を跨ぐように護岸+水域幅で25mを確保



※防波堤(I)側に 取合 5m

